

留学から見た、「世界」と「私」

# World Journey

ワールド・ジャーニー vol.4 ロシア編



## 世界各国から集まる学生に囲まれ、国際的なセンスを磨く。



Благодаря общению со студентами из разных стран укрепляется международное мышление.

Гуляя по Москве, наслаждаюсь её экзотической атмосферой.

日々歩いて感じた  
モスクワの街と異国の文化。

観光地として有名なクレムリンや赤の広場、ロシアの大文豪が住んでいた屋敷が有名なアルバート通りなど、留学中は大学があるモスクワの街をよく歩きました。私のおすすめは、救世主ハリストス大聖堂。中に足を踏み入れると、荘厳な雰囲気に包まれています。



Получаю большое удовольствие от летней белой ночи и от красивой зимней алмазной пыли.

夜を楽しむ、白夜の夏。  
ダイヤモンドダストが美しい冬。

白夜の時期は夜中2時ぐらいまで明るく、夏の夜を存分に楽しめます。一転して冬は、マイナス20℃になるほどの極寒。買ったコーラが家に帰るまでに凍るほど。でも、美しいダイヤモンドダストに心が踊りました。ロシアは、室内に入るとどこも温かいので、上着の下はみんな薄着なんですよ。



С помощью спорта, характеризующегося общением вне языковых барьеров, знакомлюсь с национальностью

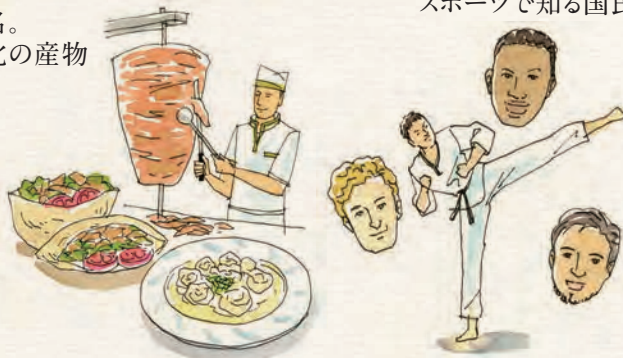
言葉を越えたコミュニケーション、  
スポーツで知る国民性。

テコンドが趣味の私は、ロシアでも道場に足繁く通いました。さまざまな出身国の人が集まり、国際的な場でした。日本人は型を重視して「真面目」、ロシア人は手加減なしの「勝ち気」、カナダ人は常に「フレンドリー」と、国民性も少し見えた気がします。

Пирожок и борщ известны как русские домашние блюда, но на самом деле они являются продуктами многонациональной культуры

ピロシキやボルシチが有名。  
でも実は、多民族・多文化の産物  
ロシアの家庭料理。

実際に暮らして知ったのが、実はロシアのポピュラーな家庭料理が餃子であること。サワークリームをかけて食べたりします。私は、街中で人気のアラブ料理、シャウルマをよく食べました。日々の料理を見ても、多民族・多文化の影響を受けているのがよくわかります。



どこの国でも生きていける。「自信」と「骨太さ」が身に付いた。

留学先には、ロシア語を学ぶために世界各国から学生が来ていました。アジア、ヨーロッパ、南米、アフリカと、寮はバラエティ豊かな外国人の集まりの場。国際感覚を身に付けるにはもってこいの場所でした。さまざまな生活習慣や文化にふれ、留学前より価値観も広がったと思います。また、多くの留学生に囲まれ、「英語ぐらい話せなければ」とその必要性を実感し、その後1年間カナダへの留学も実現しました。卒業後は、商社で海外ビジネスに携わります。どこの国に飛び込んで生きていける。ロシアへの留学はそんな「自信」と「骨太さ」、そして「行動力」を私に与えてくれました。

言語学科 ロシア語専修4年(現ヨーロッパ言語学科 ロシア語専攻) 楠木 健太郎さん

ロシア・ロシア連邦国立ブーシキン記念ロシア語大学(認定留学)3年次留学



Professor Voice | 現地に行って学ぶことは、最も効果的な語学の勉強。

多民族多言語国家のロシアに留学し、五感で学び、グローバル感を鍛えよう。

ロシアには、こんなことわざがあります。"Не красна изба углами, а красна пирогами。(家の素晴らしさは、部屋のたたずまいではなく、ピロシキによるもので決まる)" ロシア人という、みなさんが一般的に思い描くのは無愛想なイメージです。でも実は、人をもてなすのが大好き。そして多民族・多文化国家ゆえに、寛容で大らかです。メディアの情報や先人観だけにとらわれず、自分自身で理解することが大切ですね。ロシア語専攻では、留学を奨励し、今年度からは全員が留学を経験する予定ですが、今までも

クラスの約3分の2の学生が留学を体験しています。頭を使うだけでなく、五感で学ぶことを大切にしているからです。留学は、複雑な言語体系を持つロシア語を修得する上でも有益ですが、なにより多民族多言語国家のロシアはグローバルな感覚を養ううえで、最良の国です。言葉は、人が存在してこそ生まれるもの、その先には、国や国民を理解したいという想いが伴います。だから、現地で同じ空気を肌で感じ、同じ食べ物を食べるのが一番勉強になります。そして、イレギュラーやハプニングを経験し、それを克服する留学生活は、間違いなく自分を一回り大きく成長させることができます。

ヨーロッパ言語学科 ロシア語専攻 教授 クツェレヴァ ジャメ アンナ

